



御所浦地区壮青年部グループ

御所浦地区について

御所浦地区は、熊本県南東部にある天草市にあり、御所浦島、牧島、横浦島の3つの有人島を含む大小18の島々からなる町である。

当地区は、古くから漁業の町であり、現在もごち網やちりめんなどの漁船漁業や魚類養殖が盛んに営まれる。また、島の至る所で太古の地層や化石を見ることができることから、平成21年に日本ジオパークに認定され、それを目的とする観光客が多く訪れている。

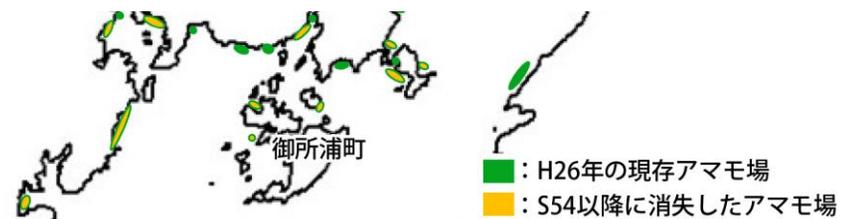


藻場の現況

漁業が基幹産業となる当地区では、近年、魚介類の水揚げが落ち込んでいる。その要因は複雑で不明瞭であるが、藻場の衰退が一つの要因として挙げられる。

かつて、島の浅場にはアマモ場が広がっていた。このアマモ場は、島で漁獲されるアオリイカの産卵場や多様な魚介類の育成場になっていた。

アマモ場が広がっていた当時は、漁業者の関心は薄く、その保全について考える島民もほとんどいなかった。しかし、アマモ場が有す機能が注目された頃には、アマモがほぼ消失しており、その再生が水産資源の回復・増大を図る上で喫緊の課題となった。



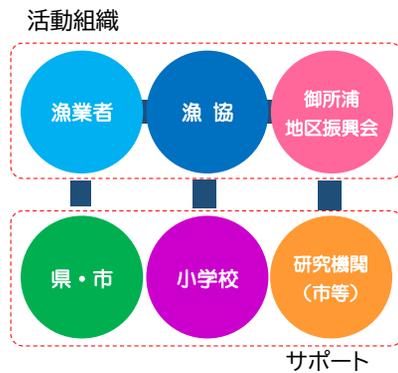
(資料) 漁業者のためのアマモ場造成マニュアル(熊本県,2014)一部改変

組織の設立および活動方針

上記課題の中、地区内でアマモ群落が僅かに現存する場所が見つかった。

そこで、漁業者・漁協が中心となり、平成25年度に「御所浦地区壮青年部グループ」を設立した。

活動目的は、現存するアマモ場の維持・拡大。また、アマモを知らない島民が多いことから、小学生などの地域住民を巻き込んだ取組を展開することにした。



- ① アマモの移植・播種**
アマモの移植・播種を行い、現存するアマモ場の維持・拡大を図る。
- ② 環境学習(小学校との協働)**
アマモの移植・播種活動を、小学生児童と一緒に実施し、アマモ場の保全への理解と、天草の海を大切にす郷土愛を育む。

アマモ場を再生し、豊かな天草の海を継承する

(1) アマモの移植・播種

アマモの移植は、種から育てた苗を用いて実施する。育てた苗を用いる理由は、現存するアマモ場への負荷を減らすため、また充実した環境教育を行うためである。

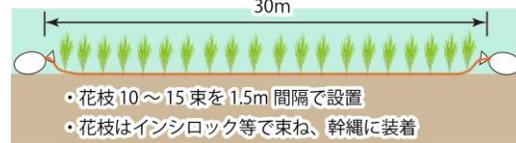
移植の手順は、①花枝採取、②種子の熟成、③種子の選別、④苗の育成(育苗ポットづくりとその育成)、そして⑤移植である。



アマモの播種については、同県にある芦北高校の生徒たちが開発したロープを用いた下種更新法を用いて、現在取組を進めている。

下種更新法は、下図のとおりである。種子の広がり自然任せとなるが、①花枝を採取後すぐに造成が可能であること、②資材が少なく安価に造成ができること、③広域に造成ができるなどの利点がある。

ロープ式下種更新法



(3) 環境学習(小学校との協働)

上記取組の全てではないが、環境学習の一環として地元小学校の5年生児童にも活動を手伝ってもらっている。なお、当取組は、天草市水産研究センターや海の体験教育を行う「天草海部」、アマモの研究を行う「熊本大学」や「(株)アグリライト研究所」の協力を得て実施している。



活動の成果と課題

現在、アマモが全く確認できなかった場所に、豊10畳分程の群落が形成されるようになった。また、イカ類のタマゴが目視されるなど、魚介類の産卵場や育成場として機能している様子もうかがえるようになった。さらに、島の子どもたちと一緒に活動を進めたことで、我々の取組が学校新聞で特集されたり、地元新聞やテレビで紹介されたりする機会が増えた。

今後は、モニタリング活動がアマモの生育や分布状況を確認するに留まっていることから、定量的なモニタリングが実施できるよう、体制づくりも含めて検討していきたい。また、子どもたちと一緒にこれからも活動を継続し、広く一般に情報発信し、例えば学校教育の一つのメニューとして天草の各浜で藻場保全の取組が行われるようになればと思う。

